

研究授業「保育職基礎演習Ⅰ」の実施

柴田 玲子*

Reflections on an Early Child Care Education: Basic Seminar Open Class

Reiko Shibata

要約

本稿は、平成 29 年度第 1 回保育学科研究授業「保育職基礎演習Ⅰ」の実施報告である。保育職基礎演習Ⅰ、同Ⅱは本学が独自に設定した科目で、保育学科全教員が担当する。Ⅰの授業は、教員の専門領域に基づくオムニバス形式で進めており、本時は「保育者として身に付けておきたい音楽の常識－楽譜に含まれる意味の重要性」に触れる内容で実施した。

キーワード：保育、楽譜の読み取り、子どもの歌、表現

(Abstract)

This paper reports on an *Early Child Care Education: Basic Seminar I* open class held in 2017. The Department of Early Childhood Education at Takamatsu Junior College originally developed this series of lectures. Each faculty members was responsible for an individual seminar. The Basic Seminar I, held in the first term, focused mainly on each staff member's field of specialization. "The importance of the textbooks" and "the need to read the intention of the composers from scores," about the songs of the children were discussed in this seminar

Keywords: Early childhood education seminar, Reading music notation, Children's songs, Expression in music

はじめに

保育職基礎演習Ⅰは学科教員や外部講師による講義・演習を通して、「保育者」の本質に近づくことを目標とした初年次教育として位置づけている。常に学科専任教員全員が参加しており、担当研究室の学生ばかりでなく、学生全員の問題点を共有できることで一貫した指導が可能になっている。教員の専門領域は異なっているが、共通の到達目標を意識して毎時、主担当者が指導案を作成しており、保育者養成における大切な部分を担う授業である。今回、その中で音楽に関する研究授業を行ったので、授業内容の報告と考察を行う。別に開講している専門科目の音楽Ⅰ、Ⅱは主にピアノや弾き歌いの実技を個別対応で指導する授業であるため音楽理論に触れる機会がない。そこで、本授業では、筆者の専門領域である音楽（作曲・音楽理論）の立場から、基礎的な楽譜の知識を扱った。

1. 「保育職基礎演習Ⅰ」の授業について（本学シラバスより抜粋）

【担当教員】 保育学科教員全員

【授業の紹介】

「保育者(先生)になること」を単なる「あこがれ」から確かな「目標」へと切り換え入学した1年次生のみなさんが、「保育者(先生)」として必ず求められるものについて考え・体得する。これが保育職基礎演習です。保育者になるための専門的知識・技能に関する授業だけでは学び得ない内容を、グループワークやディスカッションも取り入れながら多面的に学んでいくことで、保育者としての資質能力の基礎を養っていきます。

【到達目標】

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を高めることができる。
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育むことができる。
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力を身につけることができる。
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養うことができる。

2. 研究授業の日程

研究授業および検討会は次の日程で行われた。

〈研究授業〉 日 時：2017年6月19日（月）1校時 9時00分～10時30分

場 所：2101 講義室

授業科目：保育職基礎演習Ⅰ（保育学科1年生58名対象）

参加者：保育学科教員 7名

〈検討会〉 日 時：2017年6月20日（火）3校時 13時00分～14時30分

場 所：2205 演習室

参加者：保育学科教員 7名

3. 学習者の状態

本学への進学が決まった高校生に対して、12月あるいは2月に入学前教育の一部として音楽Ⅰ、Ⅱ（弾き歌い）の概要を示し、教科書（子どもの歌 曲集）を希望者に購入させた。ピアノの経験は個人差が大きいですが、入学前の段階で歌の重要性を知り、春休みあるいはそれ以前から少しずつ取り組んでほしいというのがこちらの意図である。

入学と同時に音楽Ⅰでは個々の能力に合わせた指導を行い、この時期になると、初心者でも何曲か弾き歌いのレパートリーを持ち始めている。しかし、経験や基礎知識が不足しているために楽譜を読むことができず、すべて聞き覚えでその旋律になるように指を動かしているだけという学生が少なくないというのが現状である。

4. 設定した主題

保育者自身が子どもの音楽的環境であるとすれば、「子どもが楽しく歌う」ために保育者にはどの程度の音楽的技量が求められるのか。理想を言えば限りがないが、少なくとも楽譜を正しく理解し、（たとえ簡易伴奏であっても）余裕を持って弾き歌いできることが、子どもと歌の楽しさを共感できる条件になると思われる。

そこで、本研究授業では、伴奏付きの子どもの歌について、①「歌を通して五領域に働きかけるもの」に気付くこと、②「楽譜から読み取るべき情報」を正しく理解することの2点を主題として授業を行った。それによって、今後弾き歌いする時に、少しでも歌詞への理解を深め、部分的にでも作曲者の意図を表現できる、そして、弾き歌い以外のところも含めて、音楽的感性豊かな保育者になってほしい。

5. 指導案

保育職基礎演習Ⅰ 子どもが楽しく歌うために

2017年6月19日（月）1校時

Ⅰ. 本時のねらい

- ・幼稚園教育要領より五領域に注目し、「歌を通して五領域に働きかけるもの」に気付く
- ・「楽譜から読み取るべき情報」を正しく理解する

Ⅱ. 使用教材・資料

- ・学習シート ①「あめふりくまのこ」の楽譜他、裏面にシート②の応用練習問題
- ・学習シート ② 速度記号・標語、調号、拍子記号、強弱の記号、繰り返し記号
裏面に知識（常識）の確認問題とメモ・練習用五線
- ・資料 ① 幼稚園教育要領より五領域関係部分抜粋（裏面にコードネームの概要）
- ・資料 ② 五領域に関わる歌
- ・資料 ③ 作曲家と作品

Ⅲ. 授業の流れ

	内 容	指導上の留意点
9:00	(資料①配布・・・後掲) 五領域を記入し、該当する歌を探す (資料②③配布・・・後掲)	五領域という認識を確認する。 子どもの歌に関するレパトリーの必要性に気付く。
9:10	(学習シート①配布) 楽譜から歌詞の情景を読み取り、絵を描く 前期課題曲について情景を説明させる	歌は、歌詞が大切であることに気付く。 弾き歌い試験を前に、歌詞をどう理解しているかを確認する。
9:25	(学習シート②配布) シート②にしたがって説明・確認する 1. 速度記号の意味、速度標語は速度だけでなく、曲想も表すことを知る。 2. #1個ト長調、#2個ニ長調、b1個ヘ長調 移動ドとは何か、移動ド階名唱を経験する。 3. 拍子記号の意味。 4. 強弱に関する記号の理解。 5. リピート D.C. D.S. コーダ記号の理解	演奏時間の計算法を考える。 速度標語の代表的なもの（中学校教科書程度）確認。 左記の3つの調は子どもの歌に頻出のため、できれば調号暗記、移動ド唱可能にしたい。 (グループ別に移動ドの歌練習→発表) 併せて後期課題曲にある8分の6拍子を扱う。
10:20	6. コードネーム (資料の提示のみ) 和音伴奏はまず、主要三和音のポジションをつかむことに慣れること、単音伴奏もそれから抽出されるが、コードネームからも抽出できることを知る。	配布資料①裏面 コードネームの概要参照。 教科書巻頭にコードネーム一覧が掲載されており、興味のある学生は適宜参照できる。
10:25	本日のまとめ	弾き歌いの練習は楽譜に注目 弾き歌いはレパトリーとして楽譜なしで。

6. 授業を実施して

(1) 主題の設定について

入学後、初心者であってもすでに数曲の弾き歌いをレパートリーにしつつあるこの時期に、あるいはそれ以前に、学生に対してこの内容の授業は不可欠であると考える。

まず主題①「歌を通して、五領域に働きかけるもの」に気付くことについては幼稚園教育要領や保育所保育指針にある「五領域」の理解が基礎となるが、五領域について各授業で扱っているものの、この時点ではまだ学生に定着しているとは言えない。そこで、注意喚起するために、この授業においてもそれに触れることが有効であると考えた。そのため、各領域の概要とねらいを確認しつつ、生活のあらゆる場面で五領域を意識して保育にあたる必要を感じ取ることを目指した。普段誰もが口ずさむ子どもの歌であるが、聞き覚えもあって何気なく歌っているだけで、多くの学生が歌詞を重要視していないことは明らかである。弾き歌いの前期末試験課題曲について、ほとんどの学生は毎日歌っているにもかかわらず、歌詞に出てくる言葉を追及すると意味を知らない場合がある。歌の情景を絵にする作業においても細かい部分で状況と異なっていたり、理解が表面的で作詞者の意を受け止められていなかったりということが露見するのである。たとえ子どもの歌とは言え、「教材研究」なしに取り組むことがあってはならない。この主題は気付きと共に、歌詞・一つひとつの言葉を大切に歌うこと、そして、前もって教材研究することの必要性を伝えるために設定したものである。定着させるのに十分とは言えないが、学生への問題提起にはなったと思われる。

楽しさを共有することやリズムに乗って身体表現を楽しむことなどは歌う行為そのものに委ねられる。歌詞の深い意味はともかく「聞き覚えで歌って体を動かす楽しさを味わうことができればよい」という考えもあるだろう。しかし、その歌を提供する（教える）保育者自身は正しく曲を理解しておきたい。歌詞が何を伝えようとしているかに注目するべきである。単純な歌詞であっても、その内容は単独あるいは複数の領域に深く関わってくる。もとより5つの領域は子どもの成長発達に複合的に関わるものであるため、明確な区別がつかない場合もあるが、子どもの歌を敢えて分類すれば後掲の参考資料②に示したようになるのではないだろうか。さらに、この授業では資料以外の歌についても学生が分類し、追加記入する作業を行った。

次に主題②の「楽譜から読み取るべき情報」を正しく理解することである。専門的に言えば、楽譜には「作曲者の思い通りの演奏が完全に再現できる」情報がすべて含まれている。音の高さや長さだけではなく、フレーズ感や息遣い、曲の速さや強弱の表現、繰り返す時の進行について表記されている。旋律だけの譜であってもコードネームの記入があれば伴奏の響きまでを指定しているのである。一般的に、楽譜が「読める」というのは、音符の位置からドレミがわかることを指すが、実際にはそれだけでは不十分である。どんな記号をどのように理解するかが、本質的に演奏に影響を与えるのである。この授業では中でも最も基本的な部分にだけ触れた。音楽用語や記号については、本来、小中学校の教科書に記載がある内容にもかかわらず、「ゆとり」教育開始と共に（教科書に記載があっても）指導要領では

「必ず扱う内容」とされなくなった。その結果、音楽の授業は感覚的なものに流れてしまう傾向が強いのである。以前の授業で今回と似た主題設定をした時に、最初は、当然知っているであろう内容を確認するつもりであった。ところが、数人の学生と話をした際に知識がゼロであることに愕然として方向転換せざるを得なかった覚えがある。「移動ド階名唱」なども含めて、学生にしてみれば「初耳」に近い知識ばかり、使いこなすには時間を要するであろうと思われるが、今後、新曲を扱う時や自分で楽譜を作る時などに、こういった知識なしには作業できないことを感じるに違いない。せめてこれから後期にかけて取り組む弾き歌いの曲を通してだけでも、楽譜の価値を見出してほしい。

(2) 授業の流れについて

学生全員が今練習している「弾き歌い課題曲」を題材に授業を進めたため、興味を持って取り組む姿が見られた。しかし（ある程度予測はしていたが）思った以上に「知らない、意識していない」が多すぎて、話を次に進めることができない状況が続き、最初に予定していた移動ド唱に関するグループ活動は取りやめざるをえなかった。

90分という限られた時間であるため、内容を厳選し、量を少なくして深く語ることで学生に定着させたいと考えた。しかし、実施してみるとこれでもまだ内容が盛りだくさんすぎて時間が不足した。どうしても伝えたいことが多すぎるのが原因だとは思いますが、今後、どのように実技と両立させればよいかについて検討していきたい。今回の授業に関して言えば、内容をもっと絞り込み、例えば、歌詞の重要性と調の説明→移動ド階名唱だけにすれば、ある程度学生が自発的に取り組む場面も作れたのではないかと思う。

(3) 音楽面から見た保育者養成の現状と課題

短期大学では学生を2年間で保育者として社会に送り出さなければならない。そのため、教員の誰もがそれぞれの研究領域で「せめて、これだけは・・・」という思いを強く持ち、各科目で、そして、この授業のような教員全員が関わる授業で工夫を重ね、取り組んできた。どの授業においても幼稚園教育要領と保育所保育指針を扱うようにしている。

本学のカリキュラムのうち音楽に関するものは、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、表現Ⅱ、ピアノ特別演習である。4年制の高松大学においては「子ども音楽療育士」の資格も想定しているため「音楽理論」を私が開講しているが、短大では過密なカリキュラムのため、常に「スリム化」が話題に上るほどで、これ以上の余地がない。今回の授業内容のような指導はどこで行えばいいのか、その答えは見つかっていない。音楽Ⅰの時間に取り入れるのが良いという意見が過去に出たことがあるが、個別対応が主流になるので一斉指導に時間を割くことができないのが現実である。学生が1年も経たないうちに実習にでることを考えると、とにかく指を動かすことを急がなければならないのである。そういった背景の下、現実にはピアノや歌に様々な問題を抱えている学生が多く、個々に時間をかけて対応するも、なかなか追いつかない。それでも、積極的な学生は自分の技術に危機感を持っているため、何度も相談に来て改善を図ろうとして少しずつでも良い方向に向かっている。問題はそうではない学生だ。頭の片隅には「自分が音楽に弱点がある」と分かっているが、日常的に何とかして音楽から逃

れようとする。音楽に関しての得手不得手は入学までの音楽経験によるところが大きいとは言え、保育者になってから必要に迫られて取り組むのでは遅い。学生のうちに最小限のスキルを身につけ、臨機応変に対応できる準備をしてほしい。

学生の状況は、音楽Ⅰのスタートラインから既に一人ひとり異なっている。本学では少人数にクラス分けすることにより個別対応が可能になっているため、授業においてはその学生に最も適した指導を行っているが、入学時の状況についていくつかの段階に分けて示すと次の表のようになる。

レベル	状 況
1	音楽に触れたのは小中学校の授業のみ、高校の芸術では音楽以外を選択。鍵盤楽器にはほぼ触れたことがなく、当然ながら楽譜も全く読めない。
2	音楽に触れたのは小中学校の授業のみ、高校の芸術では音楽以外を選択。幼い頃にピアノ又は電子オルガンを習ったが3年以内にやめた。習っていたとはいえ、楽譜は読めない。
3	高校の芸術では音楽を選択した。音楽は好きだが楽譜は読めない。鍵盤楽器はあまり弾いたことがない。
4	鍵盤楽器を習ったことがなかった。保育を志してからピアノを習い始めたが、まだ1年未満。バイエル途中。
5	ピアノは習ったことがない、あるいは幼い時に少しだけ。音楽系の部活動を続けてきた。合唱・吹奏楽などを小学校高学年あるいは中学校から継続しているため、楽譜は読める。
6	高校で芸術コース。ピアノをはじめ、歌、ソルフェージュ、楽典など、音楽の基礎は勉強した。
7	幼い時からずっとピアノ or 電子オルガンを続けている。ピアノは得意。
8	高校で音楽科に在籍していた。音楽大学進学も考えたことがある。楽典はほぼ完全に理解している。

高校の芸術選択が音楽であっても、高校により、先生により、授業の内容は千差万別である。聞き取りによると、「ずっと合唱だけだった」とか、「いつも音楽鑑賞の時間だった」、「少しピアノを弾いた」、「先生がギターを得意なのでギターを弾く授業だった」などの答えが返ってきた。中には「楽典の授業で定期試験が大変だった」という回答も少数聞くことができたが、楽譜の知識に話が及ぶことは少ないようである。

上記の表において楽譜の知識（楽典）を系統的に学んだと言えるのは、レベル6と8だけである。しかし、レベル6は音楽科に準ずるとはいえ、十分な時間をかけて楽典に取り組めたかと言えば難しい部分があると思われる。レベル7は弾くことはできても、その曲を弾くのに必要な知識のみしか分かっていない場合があり、系統的かと言えば非常に曖昧な知識

しか持っていないので楽譜を自分で書くことなどは難しい。

レベル5は、習っていないなくても、良い演奏をめざして努力してきた経験の中で必要に迫られて楽典をある程度身につけている。楽譜と毎日向かい合ってきた成果で、楽譜もそれらしく書くことができる。しかし、合唱の男声あるいは吹奏楽の低音楽器担当でもない限りへ音記号の読譜は少々苦手である。

そして、レベル1～4は当然、楽譜の知識は皆無に近い。最初のうちは音符にドレミと記入しておかないと弾けないし、音符の長さに関する知識も非常に曖昧で聞き覚えによって処理している。ト音記号さえ正確な位置に書けない。それでも「弾き歌い」ができていたのはたいしたものであるが、それでしのぐことができる期間は長くはない。

これまで楽譜の知識について学ぶ機会を持つことができなかつた学生がかなりの割合を占めることについて、音楽I担当教員(非常勤も含む)で話し合ったことはあるが、15回しかない授業で弾き歌いの課題曲をクリアさせるためには、演奏指導以外のことを行う余裕がなく、その結果、各教員が必要と思われることをグループ内で、あるいは個別対応の中に入れるというやり方で授業を進めている。時間外に補講として入れることも、ぎっしり詰まった時間割を見ると難しいので現状では対処できない。オムニバスで担当する時にのみ一斉授業が実現するので、今後もそれが有効に機能するような指導を考えていきたい。

楽譜を正しく読めること、そして、書けることは、演奏を再現するにあたって不可欠であると言える。保育者として聞き覚えた歌をすぐに弾けるセンスがあれば、日常の保育においては困らないかもしれないが、子どもの感性を豊かに育むことを考えた場合、やはり表現という広い視点で考えなければならない。子どもの表現に気づき、増幅して返し、表現の喜びを共有すること、そしてそれを記録に止めるのが保育者の役割と言えるだろう。

謝辞

学科の先生方には、ご参観いただき、そして検討会にもお付き合いいただきありがとうございました。検討会、参観記録を通して、普段、講義形式の授業をなさっている先生方より貴重なご意見や励ましの言葉、ご感想など、多くのご指導をいただきましたこと、今後の授業や学生対応に活かしていきたいと思っております。この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

参考文献

内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 平成26年告示』フレーベル館、2014年。

厚生労働省『保育所保育指針 平成20年告示』フレーベル館、2008年。

文部科学省『幼稚園教育要領 平成20年告示』フレーベル館、2008年。

* 以下の資料は授業時に配布した資料である。この資料の他に作業用の学習シート2枚を配布した。

保育職基礎演習Ⅰ 子どもが楽しく歌うために

参考資料①

歌の素材は様々で、絵本などと同様に重要な児童文化財と言えます。特に(受動的ではなく)能動的に口に出して歌うことによって、子どもは、その言葉を自分のものにすると共に身の回りのいろいろな事象に気付き興味を持ちます。その対象は非常に幅広いものです。以下の五領域は常に関連し合って子どもの活動を支えるものですが、それぞれの文からどんな歌を想像しますか？

五領域（幼稚園教育要領）

<p>() (内容の取り扱い より)</p> <p>豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。</p>	
<p>() (内容・内容の取り扱い より)</p> <p>様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。様々な遊びの中で、～ 全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、～</p> <p>～ 教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする～</p>	<p>() (内容・内容の取り扱い より)</p> <p>先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。</p> <p>～ いろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみを持ち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。</p>
<p>() (ねらい・内容の取り扱い より)</p> <p>身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>～ 自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。</p>	<p>() (内容・内容の取り扱い より)</p> <p>先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージを持ち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。</p>

五領域に関わる歌

参考資料②

「表現」領域は、音楽・造形・身体表現のすべてが、どの歌にも関わりを持ちます。

この他にもあなたが知っている歌を追加して記入してみましょう。

表現	
健康 体の動作、食物など かもつれっしゃ 手をたたきましょう むすんでひらいて さんぽ ぶらんこ おべんとう やきいもグーチャーパー コンコンクシャンのうた	人間関係 人の気持ち、人に対する言葉かけ せんせいとおともだち めだかのがっこう ぞうさん ハッピーバースディ ありがとうさようなら サッチャン せかいじゅうのこどもたちが いぬのおまわりさん 一年生になったら
環境 動物・植物、自然環境すべて ちょうちょう ぶんぶんぶん チューリップ ぞうさん 風よふけふけ	言葉 あらゆる歌の歌詞から言葉が定着する 言葉遊びの歌 ストーリーのある歌 トマト こぶたぬきつねこ あめふりくまのこ

作曲家と作品

参考資料③

湯山 昭 (1932～) あめふりくまのこ おはながわらった コンコンクシャンのうた バスごっこ おはなし指さん やまのワルツ	中田 喜直 (1923～2000) 夏の思い出 めだかの学校 かわいいかくれんぼ あひるの行列 ちいさい秋みつけた おかあさん 大きなたいこ	大中 恩 (1924～) いぬのおまわりさん おなかのへるうた サッチャン トマト ドロップスのうた
山本 直純 (1932～2002) 一年生になったら こぶたぬきつねこ やきいもグーチャーパー	芥川也寸志 (1925～1989) ことりのうた ぶらんこ	團 伊玖磨 (1924～2001) ぞうさん おつかいありさん やぎさんゆうびん
小林 亜星 (1932～) あわてんぼうの サンタクロース にんげんっていいな	久石 譲 (1950～) さんぽ となりのトトロ 崖の上のポニョ	新沢としひこ (1963～) 中川ひろたか (1954～) にじ 世界中のこどもたちが ともだちになるために
福田 和 禾子 (1941～ 2008) 北風小僧の寒太郎 ありがとうさようなら そうだったらいいのにな バナナの親子	中山 晋平 (1887～1952) 雨ふり しゃぼんだま しょうじょう寺の たぬきばやし	下総 皖一 (1898～1962) たなばたさま かくれんぼ
山田 耕筰 (1886～1965) 赤とんぼ	本居 長世 (1885～1945) 七つの子	平井 康三郎 (1910～ 2002) とんぼのめがね

ぶんぶんぶん ボヘミア民謡 大きな栗の木の下で イギリス民謡
山の音楽家 ドイツ民謡 森のくまさん アメリカ民謡
どんぐりころころ 梁田 貞 (やなだただし 1885～1959)
思い出のアルバム 本多 鉄磨 (1905～1966)
おもちゃのチャチャチャ・はたらくるま・サザエさん 越部 信義 (1933～2014)